

○主催
 一般財団法人観世文庫
 名古屋名駅薪能実行委員会
 ○特別協賛
 東海旅客鉄道株式会社
 トヨタ自動車株式会社
 ○後援
 愛知県
 名古屋市
 愛知県教育委員会
 名古屋市教育委員会
 愛知芸術文化協会 (ANET)
 NHK名古屋放送局
 中日新聞社
 朝日新聞社
 読売新聞社
 毎日新聞社
 日刊工業新聞社
 中部経済新聞社
 中京テレビ放送株式会社
 CBCテレビ
 東海テレビ放送
 メ〜テレ
 テレビ愛知
 東海ラジオ放送
 株式会社ZIP-FM
 @FM
 ○協賛
 ジェイアールセントラルビル株式会社
 株式会社ジェイアール東海高島屋
 東海キヨスク株式会社
 名古屋マリオットアソシアホテル
 名工建設株式会社
 三井物産株式会社
 豊田通商株式会社
 名鉄グループ
 東和不動産株式会社
 安藤ハザマ
 愛晃開発株式会社
 東海東京証券株式会社
 東邦ガス株式会社
 テンブスタッフ・ビーブル株式会社
 コカ・コーライーストジャパン株式会社
 キリンビールマーケティング株式会社
 キリンビバレッジ株式会社
 アサヒビール株式会社
 アサヒ飲料株式会社
 サッポロビール株式会社
 サントリー酒類株式会社
 株式会社伊藤園
 NTT都市開発株式会社
 アイシン精機株式会社
 株式会社アドヴィックス
 阪和興業株式会社
 東明工業株式会社
 株式会社大輪製作所
 株式会社青島設計
 株式会社泉不動産
 医療法人高田内科医院
 株式会社山田商会
 株式会社朋優
 株式会社EDUCOM
 株式会社松浦商店
 株式会社太閤ビルディング
 株式会社むさし家
 中日本興業株式会社
 ダイードリンク株式会社
 医療法人としわ会
 安藤貴金属精錬株式会社
 モンブランホテル
 株式会社中部新都市サービス
 株式会社キョーイク
 株式会社タキモ本店
 名古屋名駅ロータリークラブ
 名古屋名駅ロータリークラブ「能に遊ぶ集い」
 ○企画協力
 中日本エージェンシー
 株式会社三見社
 有限会社アップルアップル

薪能

第十五回記念
 名古屋名駅



ヌネスコ第一回世界無形遺産の宣言「能楽」
 舞囃子「菊慈童」久田三津子他
 盤渉
 狂言「千鳥」野村又三郎他
 能「土蜘蛛」観世清和
 黒頭
 福久観
 王田世
 和幸他
 勘鷗

真夏の夜の祭典ひと、ゆめ、燃える

NAGOYA MEIEKI TAKIGINOH

7月31日(日) 5:00PM開場予定 6:00PM開演
8:30PM終演予定 演能中に雨が降った場合は終演といたします
JR名古屋駅・タワーズガーデン特設会場
 ※雨天時：名古屋能楽堂〔名古屋城正門前〕6:00PM開場 7:00PM開演
 ※但し、整理券必要(先着・全600席)当日午後3時決定。問合せ先 ☎(052)482-3580
 ※会場変更の場合、ホームページならびに東海ラジオ放送で午後4時頃お知らせする予定です。

第8回
 「名古屋名駅薪能」
全国学生能楽コンクール
 日時
 平成28年7月31日(日)
 10:00AM～
 会場
 名古屋能楽堂
 ☎(052)231-0088(入場無料)
 午後5時より〔第15回名古屋名駅薪能〕会場にて
 結果発表及び表彰式・エキシビジョン演技披露

整理席の応募方法
 往復ハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望席数(1通2名様まで)をご記入の上、下記へお送り下さい。ホームページから応募ができます。
 当選発表は発送をもって替えさせていただきます。
 〒453-0024 名古屋市中村区名瀬町4-16 大黒寺内 名古屋名駅薪能実行委員会事務局 ☎(052)482-3580
 ※応募締切：平成28年7月8日(金)必着 ※自由席は当日先着順
 名駅薪能 検索



※ご応募いただきました皆様のお名前・住所等の個人情報は、今後の企画の参考としてのアンケートに利用させていただくことがあります。当事務局は、個人情報に関する法令及びその他の規範を遵守するとともに、皆様の個人情報の保護に万全を尽くしてまいります。
 ※事務局(名古屋名駅薪能実行委員会)が認めた者以外の撮影・録音は固く禁じます。

新能

第15回名古屋名駅新能の開催にあたって



東海旅客鉄道株式会社
代表取締役名誉会長 葛西 敬之

今年も名古屋の夏を彩る名古屋名駅新能が開催されます事を、心よりお祝い申し上げます。

大都市「名古屋」の玄関口、JR名古屋駅において、日本の伝統芸能である「能」を演じるこの非常にユニークな催しも着実に回を重ね、今年で15回目となります。これもひとえに財団法人観世文庫や名古屋名駅新能実行委員会をはじめ、地元の皆様方のご尽力によるものと思います。

また、併せて開催される名古屋名駅新能全国学生能楽コンクールも、今年で8回目となりました。名駅新能が更なる拡がりを見せていることに対し、協賛する一企業として大変嬉しく存じます。

この大変意義深い行事が、今後も多くの皆様に親しまれることを期待いたします。

あらすじ

土蜘蛛

【あらすじ】源頼光は、このところずつと健康がすぐれず病床にあります。典薬頭(てんやくかみ)をつかさどる役所の長官からの薬をもつて、胡蝶という侍女が見舞にやってくる。すつかかりの弱くなっている頼光に、治療さすれば直りますと、胡蝶は慰めの言葉を残して退出します。すると、いつの間に来たのか、病室の隅に一人の僧が佇んでいます。そして「いかに頼光、御心持は何と」と尋ねながら近づいて来ます。頼光が、深夜に及んで尋ねて来た僧の名を思い出しかねていると、「我が背子が来べき宵なりささがにの、蜘蛛のふるまいかねてしるしも」という古歌を詠じたかと思うと、たちまち蜘蛛の本性を現し、千筋の糸を投げかけます。頼光は枕元にあった刀で斬りつけ、たしかに手応えがあったと思いましたが、その姿は消えています。

《中入》物音におどろいて駆けつけた警固の独武者に頼光はその間の事情を物語ります。独武者があたりを見るとき、おびたしく血が流れているので、その血のあとを辿って化生の下人が忙しげに登場し、いよいよ頼光の家来たちが土蜘蛛退治に向かう旨を告げます。身ごしらえをした独武者は、郎等を引きつれ出発し、古塚を見つめます。力を合せてその塚を突き崩すと、中から土蜘蛛が姿を見せ、糸を繰り出して退治に来た武者を悩ませますが、



の「みどころ」源頼光の妖怪退治に取材した能流能(見た目の派手なショウ的な能)の代表的な作品です。ストーリーは簡潔で、詞章も平易で、節の部分も少ないので、初心者にもわかりやすく、人気曲の一つで、特に新能のような野外での大衆能には欠かせないレパートリーです。「隣忠秘抄」には「太夫の勤める曲にはあらず」などと低く評価されてお

り、とかく軽く扱われがちですが現代のアンクシオン・ドラマとして再評価されてもよい作品です。構成の面でも、世阿弥が完成した複式夢幻能とはいずれぶんちがつています。シテの登場の仕方も異様で、シテと主ツレの闘争があつて、中入するのと、入れ違いうにワキが走り出て来ます。人気のある理由の一つである、蜘蛛の糸を次々と鮮やかに繰り出すという演出と、その技術に思い至った着想は、見事です。技巧に終始している能だけに、技の利く演者でないと面白味にかける

す。【あらすじ】古代中国、魏と呼ばれる国、魏の文帝の頃、鄴縣山(えつせんざん)の麓から霊水が流れ出るといので、勅使が源を尋ねるべく、その山におもむきます。勅使の一行は、菊の花の咲き乱れた山中の庵に、一人の不思議な少年を見つけます。「人間の住まぬこの山奥にいるお前は化生の者か」と尋ねると、「あなたこそ化生の者でしょう。私は周の穆王に使用していた侍童です」と答えます。勅使は「周」というのは何世代も前の世だ」と驚きます。話を聞くと、彼は、穆王に召し使われていたが、あやまって王の枕をまたぎ、その罰でこの山に配流されたが、少年に悪意のないことを知った王は、その枕に二句の偈(仏教の詩)を書き添えて与え、詩を移し書くと、その葉の露が霊水となり、それを飲んでいたので、少年は七百年後までも若々しく生きながらえて

菊慈童

【あらすじ】

いたのです。滋童自身も、自分の長命に驚き、楽しく舞をまっただとと寿命を君に捧げ、そのまま山中の仙家へと帰ってゆきます。

千鳥

【あらすじ】

明日の地元での神事に際し、支払いが溜まっている馴染みの酒屋へ、またも掛売りで酒を買ってくるよう太郎冠者に命じますが、当然酒屋は簡単には酒を渡してくれません。そこで太郎冠者は、話好きの酒屋の亭主を相手に尾張の津島祭りの話に事寄せて、何とかして酒を持ち去ろうと悪戦苦闘しますが…。

番組

KIKU JI DOU
舞囃子「菊慈童」 盤渉
シ テ 慈 童 久 田 三 津 子
囃 子 方 笛 竹 市 学
河 村 昭 弘
加 藤 眞 介
太 鼓 河 村 眞 介
太 鼓 加 藤 洋 輝

CHI DORI
狂言「千鳥」
シ テ 太 郎 冠 者 野 村 又 三 郎
ア ド 酒屋の亭主 松 田 高 義
後 見 主 野 村 信 朗
伊 藤 泰

TSUCHIGUMO
能「土蜘蛛」 黒頭
シ テ 土 蜘蛛の精 観 世 清 和
ツ レ 源 頼 光 久 田 勘 郎
ツ レ 胡 蝶 角 幸 二
ト モ 頼 光の従者 久 田 勘 郎
ワ キ 独 武 者 福 王 和 幸
ツ レ 従 者 中 村 宣 成
喜 多 雅 人
鹿 島 俊 裕
藤 田 六 郎 兵 衛
船 戸 昭 弘
河 村 眞 介
加 藤 洋 輝
坂 上 貴 信
田 公 威
滝 沢 一 政
八 神 孝 充
伊 藤 裕 貴

〈企画・久田勘郎事務所〉



シテ方観世流能楽師
HISADA KAN-OH
久田勘郎



二十六世観世宗家
KANZE KIYOKAZU
観世清和

1947年生まれ
観世流能楽師 故久田秀雄の次男
重要無形文化財総合指定保持者
大阪文化祭賞奨励賞受賞
神戸フルール賞受賞
名古屋芸術奨励賞受賞
名古屋演劇ペンクラブ賞受賞
(公益社団法人)能楽協会
(社)観世会 会員
(社)日本能楽会 会員
(社)日本能楽会 常務理事

1959年生まれ
二十五世観世近(元正)長男
重要無形文化財総合指定保持者
平成27年春、紫綬褒章受賞
芸術選奨文部科学大臣賞
芸術選奨文部大臣新人賞受賞
フリス芸術文化勲章シゴワリ工受賞
(財)観世文庫 理事長
(社)観世会 理事長
(独)日本芸術文化振興会 評議員
(社)日本能楽会 常務理事